

# — 関西学院大学 —

2月4日 経済・国際・総合政策・人間福祉学部 英語

## 解答

[I]

A (1) b (2) a (3) c (4) d (5) b  
(6) d

B (ア) a (イ) d (ウ) c (エ) d

C c, f (順不同)

D 誰かがスキーとサーフィンとを組み合わせると面白い新しいスポーツを作り出すのにとても長い時間がかかった。

[II]

A (1) d (2) b (3) d (4) d (5) b

B b, e, g (順不同)

C 端的に言えば、肉体言語(ボディー・ランゲージ)とは、人々が自分の肉体のさまざまな部分を使って自己表現を行う方法のことである。

[III]

A (ア) c (イ) c (ウ) d (エ) d (オ) a

B (1) c (2) c (3) b

C d, f (順不同)

[IV]

(1) c (2) c (3) c (4) b (5) d

(6) a (7) a (8) a (9) c (10) a

[V]

A (1) e - b [h - d - e - f - g - b - a - c]

(2) b - a [g - d - b - c - f - a - e - h]

B Do (you know whether Professor Suzuki canceled his lecture the week after next or not)?

[VI]

(1) d (2) a (3) b (4) b (5) d

(6) b (7) a (8) c (9) c (10) c

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

## 解 説

内容一致問題の正解となるものの解答根拠となる部分のみ示しておく。

〔Ⅰ〕

C 内容一致問題。

- c 第 2 段落の後半から平昌五輪では長野五輪の種目から 5 倍に増加したと読み取れ、もともとの 2 種からの 5 倍、つまりは 10 種目、ということで本文の内容と一致する。
- f 第 7 段落 2 文目の内容と一致する。

〔Ⅱ〕

B 内容一致問題。

- b 第 3 段落の内容と一致する。
- e 第 1 段落及び第 2 段落 5 文目の内容と一致する。
- g 最終段落 2 文目の内容と一致する。

〔Ⅲ〕

C 内容一致問題。

- d 第 4 段落の内容と一致する。
- f 最終段落の内容と一致する。

〔Ⅳ〕

選択肢からどういった文法事項が問われているかを推測できるようにしておくことも大事である。

- (1) 選択肢から仮定法の問題であることがわかる。主節に注目すると、仮定法過去完了であるので、空所のあるif節も仮定法過去完了形、つまり、had + Vp.p.の形にすればよい。
- (2) 選択肢から動詞の語法を問う問題であることが推測される。問題文を見ると、空所に動詞が入り、その後ろがO + to不定詞の形になっている。SVO + to不定詞の形を取ることができる動詞が問われている、ということである。
- (3) 選択肢からは、to不定詞を使うのかもしくは前置詞+Vingの形を使うのかが問われていると推測できる。問題文に注目すると、これはIt is 形容詞 to Vで「～することは... (形容詞の意味) である」という不定詞の文にすればよいことがわかる。
- (4) 選択肢から明らかに適当な前置詞を選べばよい問題であることがわかるので、問題文に注目すると、apologizedという動詞があるので、“apologize to 人 for 理由”の形を完成させれば良い。空所の後ろには理由が書かれているので、toではなくforを選ぶ。
- (5) 選択肢には動詞が並んでいる。問題文を見ると、空所の後ろにOがないことから、この問題は自動詞で、文意が通るものを選べばよいということがわかる。選択肢dのlastは形容詞の「最後の」といった意味以外に自動詞で「続く、長持ちする」という意味があることを覚えておこう。

- (6) 選択肢からは明らかに複合関係詞（関係詞に～everがついた形）を問う問題であることがわかる。空所の後ろに名詞があることから、空所には複合関係詞の中でも複合関係形容詞が入ることがわかる。その働きがあるのは、選択肢aのwhateverである。
- (7) 選択肢からは接続詞あるいは副詞（句）を問う問題であることが推測できる。意味的に考えて、選択肢aを選ぶ。
- (8) 選択肢からはmost、almostの正確な使い方を知っているかどうか問われているとわかる。mostは形容詞、あるいは名詞の働き、そしてalmostは副詞なので、almost of という形は存在しないことは覚えていただろうか。また、mostが形容詞として使われる場合は、“most + 名詞”となり、名詞として使われるときは、“most of + 冠詞相当語句 + 可算名詞の複数形”の形になるということを確認しておく必要がある。冠詞相当語句とは、冠詞theに加えて、theseやthoseそして、myやyourなどの代名詞の所有格が含まれる。
- (9) 選択肢から前置詞の知識を問う問題であることがわかる。空所の前のsimilarに注目すると、通常はbe similar to～と使うものである。しかし、toの後ろには通常名詞が来るが、この問題ではthat節が来ている。つまり、前置詞 toは置けないということである。ここでは、選択肢cのinを入れて、in that SV「SVという点で」とすれば、文法的にも適当になる。
- (10) 選択肢を見ると、いろいろな種類の語が並んでいるので、それを踏まえて問題文を見ると、動名詞の慣用表現“it is no use [good] Ving”「～しても無駄である」とすれば、文意が通ると判断できる。

[V]

A

- (1) 注目すべきは問題の日本語がyes / noで返答できない、つまり、疑問詞whatが文頭に来るということである。並べかえた形は、以下の通りである。  
( What did you say was the matter with ) her?

- (2) 「～によろしく伝える」といった意味になる“give one’s ( best ) regards to”～という慣用表現を覚えていたかどうかである。並べかえた形は、以下の通りである。  
Please ( give my regards to her when you get ) home.

B

この問題は、日本語からyes / noで返答できるので、疑問詞があっても文頭に置く必要はない。

現に、Doから始まるのが問題文にすでに書かれている。

あとは「休講する」という日本語を英語に直せたかどうかである。難しく考えてしまっていないだろうか。

「休講する」という日本語を、より単純な日本語に言い換える作業(和文和訳)ができれば、

「休講する」→「取りやめる」= cancelと行き着けるのではないだろうか。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！